

萬葉集

二

青木生子 井手至 伊藤博
清水克彦 橋本四郎 校注

新潮社版

新潮日本古典集成 (第二一回)
萬葉集二



定価二二〇〇円

校注者

伊藤 博・清水克彦
橋本四郎

発行者

佐藤 亮 一

印刷所

大日本印刷株式会社

発行所

株式 新 潮 社

〒一六二 東京都新宿区矢来町七・
電話 東京 03 (二六六) 五・一一 (業務)
東京 03 (二六六) 五・四一一 (編集)
振替 東京 四 八〇八

装画 佐 多 芳 郎
組版 シーティエス大日本
製本 新宿 加藤製本

昭和五十三年十一月五日 印刷
昭和五十三年十一月十日 発行

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

目次

凡例……………三五

巻第五……………四三

巻第六……………一一

巻第七……………一八三

巻第八……………二六一

巻第九……………三七三

解説

萬葉集の世界(二) 萬葉歌の流れⅠ……………青木生子……………四三七

萬葉集の生いたち(二) 巻五ノ巻十の生いたち……………伊藤博……………四六七

付録

参考地図……………五三三

萬葉集 卷第五

雜歌

大宰帥大伴卿、凶問に報ふる歌一首……………	七三
挽歌詩一首并せて序 筑前国守山上憶良 上……………	四四
日本挽歌一首 筑前国守山上憶良 上……………	四七
反歌……………	七九
感情を反さしむる歌一首并せて序 筑前国守山上憶良……………	八〇
反歌……………	八一
子等を思ふ歌一首并せて序 筑前国守山上憶良……………	八二
反歌……………	八三
世間の住みかたきことを哀しふる歌一首并せて序 筑前国守山上憶良……………	八四
反歌……………	八五
歌詞兩首 大宰帥大伴卿……………	八六
答ふる歌二首……………	八八
大伴淡等謹狀 梧桐の日本琴の歌……………	九〇

琴娘子、すなはち歌ひて曰はく……………八〇 七

僕、詩詠に報へて曰はく……………八一 七

藤原房前謹状 *……………八二 五

鎮懷石を詠む歌 并せて序 *……………八三／八四 五

反歌……………八四 六

梅花の歌三十二首 并せて序……………八五／八六 六

員外、故郷を思ふ歌兩首……………八四七／八四八 七〇

後に梅の歌に追和する四首……………八四九／八五〇 七二

松浦川に遊ぶ歌 并せて序 *……………八五三／八六〇 七三

松浦川に遊ぶ序……………七 七

蓬客、娘子らに詠歌を贈りて曰はく *……………八五二 七三

答ふる詩に曰はく……………八五四 七四

蓬客のさらに贈る歌三首……………八五五／八五七 七四

娘子らがさらに報ふる歌三首……………八五八／八六〇 七五

後人の追和する詩三首 帥老……………八六一／八六三 七六

吉田宜謹状 *……………八六四／八六七 七七

諸人の梅花の歌に和へ奉る一首……………八六四 七八

松浦の仙媛の歌に和ふる一首……………八六五 七九

君を思ふこと尽きずして、重ねて題す二首……………八六六／八六七 七

山上憶良謹状 五藏の鬱結を写く歌……………八六八／八七〇 八〇

領巾麾の領を詠む歌……………八七一 八一

後人の追和……………八七二 八二

最後人の追和……………八七三 八三

最後後人の追和二首 筑前国司山上憶良 謹上……………八七四／八七五 八三

書殿にして饒酒する日の倭歌四首 筑前国司山上憶良 謹上……………八七六／八七九 八三

敢へて私懷を布ぶる歌三首 筑前国司山上憶良 謹上……………八八〇／八八二 八四

三島王、後に松浦佐用姫の歌に追和する一首……………八八三 八五

大伴君熊凝が歌二首 大典麻田陽春作……………八八四／八八五 八五

熊凝のためにその志を述ぶる歌に敬和する六首 并せて序 筑前国守山上憶良……………八八六／八八一 八六

反歌……………八八七／八九一 八八

貧窮問答の歌一首 并せて短歌 山上憶良 謹上……………八八二／八九三 九〇

短歌……………八九三 九一

好去好来の歌一首 反歌二首 山上憶良 謹上……………八九四／八九六 九二

反歌……………八九五／八九六 九三

沈痾自哀文 山上憶良作……………八九六 九四

俗道の仮合即離し、去りやすく留めかたきことを悲歎しふる詩一首 并せて

序 山上憶良作 一〇一

老身に病を重ね、経年辛苦し、さらに兄弟等を思ふ歌七首 長一首 短六首 山上

憶良作 八九七—九〇三 一〇四

反歌 八九八—九〇三 一〇五

男子名は古日に恋ふる歌三首 長一首 短二首 九〇四—九〇六 一〇七

反歌 九〇五—九〇六 一〇八

萬葉集 卷第六

雜歌 養老七年癸亥の夏の五月に、吉野の離宮に幸す時に、笠朝臣金村が作る歌

一首 併せて短歌 九〇七—九〇九 一一三

反歌二首 九〇八—九〇九 一二四

或本の反歌に曰はく 九〇一—九二 一二四

車持朝臣千年が作る歌一首 併せて短歌 九三—九四、一二五

反歌一首 九四 一二六

或本の反歌に曰はく 九五—九六 一二六

神龜元年甲子の冬の十月の五日に、紀伊の国に幸す時に、山部宿禰赤人が

作る歌一首 并せて短歌

九七〇～九七九

一二七

反歌二首

九八〇～九八九

一二八

神龜二年乙丑の夏の五月に、吉野の離宮に幸す時に、笠朝臣金村が作る歌

一首 并せて短歌

九〇〇～九三三

一二八

反歌二首

九三〇～九三三

一二九

山部宿禰赤人が作る歌二首 并せて短歌

九三〇～九三七

一三〇

反歌二首

九三〇～九三五

一三〇

反歌一首

九三七

一三一

冬の十月に、難波の宮に幸す時に、笠朝臣金村が作る歌一首 并せて短歌

九三八～九四〇

一三三

反歌二首

九四〇～九四三

一三三

車持朝臣千年が作る歌一首 并せて短歌

九四三～九四三

一三三

反歌一首

九四三

一三三

山部宿禰赤人が作る歌一首 并せて短歌

九四三～九四四

一三四

反歌一首

九四四

一三四

三年丙寅の秋の九月の十五日に、播磨の国の印南野に幸す時に、笠朝臣金

村が作る歌一首 并せて短歌

九四五～九七七

一三五

反歌二首

九三六～九三七

一三五

山部宿禰赤人が作る歌一首 并せて短歌

九三六／九四一

一二六

反歌三首

九三九／九四一

一二六

唐荷の島を過ぐる時に、山部宿禰赤人が作る歌一首 并せて短歌

九四二／九四五

一二七

反歌三首

九四三／九四五

一二八

敏馬の浦を過ぐる時に、山部宿禰赤人が作る歌一首 并せて短歌

九四六／九四七

一二九

反歌一首

九四七

一二九

四年丁卯の春の正月に、諸王・諸臣子等に勅して、授刀寮に散禁せしむ

九四八／九四九

一三〇

る時に作る歌一首 并せて短歌

九四八／九四九

一三〇

反歌一首

九四九

一三一

五年戊辰に、難波の宮に幸す時に作る歌四首

九五〇／九五二

一三一

膳部王が歌一首

九五〇

一三三

大宰少貳石川朝臣足人が歌一首

九五五

一三三

帥大伴 卿が和ふる歌一首

九五六

一三四

冬の十一月に、大宰の官人等、香椎の廟を拝みまつること訖りて、退り帰

る時に、馬を香椎の浦に駐めて、おのおの懐を述べて作る歌

九五七

一三四

帥大伴卿が歌一首

九五七

一三四

大貳小野老朝臣が歌一首

九五八

一三五

豊前守宇努首男人が歌一首

九五九

一三五

帥大伴卿、吉野の離宮を遙かに思ひて作る歌一首	九六	一三五
帥大伴卿、次田の温泉に宿り、鶴の声を聞きて作る歌一首	九六	一三六
天平二年庚午に、勅して權駿馬使大伴道足宿禰を遣はす時の歌一首	九六	一三七
冬の十一月に、大伴坂上郎女、帥の家を發ちて道に上り、筑 前の	九六	一三八
国の宗像の郡の名兒の山を越ゆる時に作る歌一首	九六	一三九
同じき坂上郎女、京に向ふ海道にして、浜の貝を見て作る歌一首	九六	一四〇
冬の十二月に、大宰帥大伴卿、京に上る時に、娘子が作る歌二首	九六	一四一
大納言大伴卿が和ふる歌二首	九六	一四二
三年辛未に、大納言大伴卿、寧樂の家に在りて、故郷を思ふ歌二首	九六	一四三
四年壬申に、藤原宇合卿、西海道の節度使に遣はさるる時に、高橋	九六	一四四
連虫麻呂が作る歌一首 并せて短歌	九六	一四五
反歌一首	九六	一四六
天皇、酒を節度使の卿等に賜ふ御歌一首 并せて短歌	九六	一四七
反歌一首	九六	一四八
中納言安倍広庭卿が歌一首	九六	一四九
五年癸酉に、草香山を越ゆる時に、神社忌寸老麻呂が作る歌二首	九六	一五〇
山上臣憶良、沈痾の時の歌一首	九六	一五一
大伴坂上郎女、姪家持の佐保より西の宅に還歸るに与ふる歌一首	九六	一五二

安倍朝臣虫麻呂が月の歌一首	九八〇	一四五
大伴坂上郎女が月の歌三首	九八一／九八三	一四五
豊前 とよのみのくち の国の娘子が月の歌一首	九八四	一四六
湯原 ゆはらの 王が月の歌二首	九八五／九八六	一四七
藤原八束朝臣が月の歌一首	九八七	一四七
市原王 いちばらの 、宴 うたげ にして父安貴王 やすきのおほきみ を禱 は く歌一首	九八八	一四八
湯原王が打酒 だしゅ の歌一首	九八九	一四八
紀朝臣鹿人 きのあそみかひと が跡見 あとみ の茂岡 しげおか の松 まつ の歌一首	九九〇	一四八
同じき鹿人 かみ 、泊瀬 はつせ の川 かわ 辺 へ に至りて作る歌一首	九九一	一四九
大伴坂上郎女、元興寺 げんこうじ の里 さと を詠 よ む歌一首	九九二	一四九
同じき坂上郎女が初月 はつぎ の歌一首	九九三	一四九
大伴宿禰家持 おほともすくねやかもち が初月 はつぎ の歌一首	九九四	一五〇
大伴坂上郎女、親族 うから を宴 うたげ する歌一首	九九五	一五〇
六年甲戌 きののえいぬ に、海大養宿禰岡麻呂 あまのいぬかみすくねおかまろ 、詔 みことり に応 こた ふる歌一首	九九六	一五〇
春の三月に、難波 なにわ の宮に幸 いづ す時の歌六首	九九七／一〇二	一五一
筑後 つくご 守外 しりの 從五位下 しりのちのちげ 葛井連 ふぢのむらじ 大成 あなり 、海人 あま の釣舟 つりふね を遙 はる かに見て作る歌一首	一〇〇三	一五一
桜作 くらげり 村主益人 むらじ が歌一首	一〇〇四	一五三
八年丙子 ひのえね の夏の六月に、吉野 よしの の離宮 とうみや に幸 ゆき す時に、山部宿禰赤人 やまべのすくねあかひと 、詔 みことり に応 こた へ		

て作る歌一首并せて短歌……………1024ノ1006 一五四

反歌一首……………1006 一五四

市原王、独り子にあることを悲しふる歌一首……………1007 一五四

忌部首黒麻呂、友の遅く来ることを恨むる歌一首……………1008 一五五

冬の十一月に、左大井葛城王等、姓橘の氏を賜はる時の御製歌一首……………1009 一五五

橘宿禰奈良麻呂、詔に応ふる歌一首……………1010 一五七

冬の十二月の十二日に、歌舞所の諸王・臣子等、葛井連広成が家に集ひて

宴する歌二首……………1011ノ1012 一五七

九年丁丑の春の正月に、橘少卿、并せて諸大夫等、彈正尹門部王が家

に集ひて宴する歌二首……………1013ノ1014 一五八

櫻井王、後に追和する歌一首……………1015 一五九

春の二月に、諸大夫等、左少井巨勢宿奈麻呂朝臣が家に集ひて宴する歌一

首……………1016 一五九

夏の四月に、大伴坂上郎女、賀茂神社を拝み奉る時に、すなはち逢坂山

を越え、近江の海を望み見て、晩頭に帰り来りて作る歌一首……………1017 一六〇

十年戊寅に、元興寺の僧が自ら嘆く歌一首……………1018 一六一

石上乙麻呂卿、土佐の国に配さゆる時の歌三首并せて短歌……………1019ノ1021 一六一

反歌一首……………1022 一六三

秋の八月の二十日に、右大臣橘家にして宴する歌四首……………一〇四／一〇七 一六三

十一年己卯に、天皇、高田の野に遊獵したまふ時に、小さき獸都里の中に

泄走す。ここにたまさかに勇士に逢ひ、生きながらにして獲らえぬ。

すなはちこの獸をもちて御在所に献上るに副ふる歌一首……………一〇八 一六五

十二年庚辰の冬の十月に、大宰少貳藤原朝臣広嗣、謀反けむとして軍を

發すによりて、伊勢の国に幸ず時に、河口の行宮にして、内舍人大伴

宿禰家持が作る歌一首……………一〇九 一六六

天皇の御製歌一首……………一一〇 一六七

丹比屋主真人が歌一首……………一一一 一六七

狹残の行宮にして、大伴宿禰家持が作る歌二首……………一一三／一二二 一六七

美濃の国の多芸の行宮にして、大伴宿禰東人が作る歌一首……………一二四 一六八

大伴宿禰家持が作る歌一首……………一二五 一六八

不破の行宮にして、大伴宿禰家持が作る歌一首……………一二六 一六九

十五年癸未の秋の八月の十六日に、内舍人大伴宿禰家持、久邇の京を讃

めて作る歌一首……………一二七 一六九

高丘河内連が歌二首……………一二八／一二九 一六九

安積親王、左少弁藤原八束朝臣が家にして宴する日に、内舍人大伴宿禰家

持が作る歌一首……………一二四〇 一七〇

十六年甲申の春の正月の五日に、諸卿大夫、安倍虫麻呂朝臣が家に集ひて

宴する歌一首

一〇四一

同じき月の十一日に、活道の岡に登り、一株の松の下に集ひて飲む歌一首

一〇四二

寧楽の京の荒墟を傷惜みて作る歌三首

一〇四三

寧楽の故郷を悲しびて作る歌一首并せて短歌

一〇四四

反歌二首

一〇四五

久邇の新京を讃むる歌二首并せて短歌

一〇四六

反歌二首

一〇四七

反歌五首

一〇四八

春の日に、三香の原の荒墟を悲傷しびて作る歌一首并せて短歌

一〇四九

反歌二首

一〇五〇

難波の宮にして作る歌一首并せて短歌

一〇五一

反歌二首

一〇五二

敏馬の浦を過ぐる時に作る歌一首并せて短歌

一〇五三

反歌二首

一〇五四

萬葉集 卷第七

雜 歌

天を詠む ^{あまをよむ}	一〇六八	一八五
月を詠む.....	一〇六九～一〇八六	一八五
雲を詠む.....	一〇七〇～一〇八九	一九〇
雨を詠む.....	一〇九〇～一〇九一	一九一
山を詠む.....	一〇九二～一〇九六	一九一
岡を詠む ^{おかをよむ}	一〇九七	一九三
川を詠む.....	一一〇〇～一一二五	一九四
露を詠む.....	一一二六	一九八
花を詠む.....	一一二七	一九八
葉を詠む.....	一一二八～一一二九	一九八
蘿を詠む ^{ろをよむ}	一一三〇	一九八
草を詠む.....	一一三一	一九八
鳥を詠む.....	一一三二～一一三四	二〇〇

故郷を思ふ……………	二二五～二二六	二〇一
井を詠む……………	二二七～二二八	二〇一
倭琴を詠む……………	………二二九	二〇二
吉野にして作る……………	二三〇～二三四	二〇三
山背にして作る……………	二三五～二三九	二〇三
摂津にして作る……………	二四〇～二六〇	二〇五
羈旅にして作る……………	二六一～二七四	二一〇
	二七六～二七五	二二三
	二七七～二九三	二三四
	二九四～二〇七	二二三
	二〇八	二二九
	二〇九・一二〇	二二八
	一二一～一二三	二二九
	一二三～一二五〇	二二六
	一二五～一二四	二二三
問答……………	二五五～二六一	二三四
臨時……………	二六三・二六二	二二六
	二六四～二六六	二二六